

第2章 地域の概況

第1節 自然環境特性

1. 位置及び地理的特性

本市は、図 2-1-1 に示すように大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中央に位置し、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市に接しており、大阪市、京都市及び奈良市までの距離がいずれも概ね 20km の距離にある。

市域は、東西約 5.4km、南北約 6.8km の方形をしており、面積は 25.55k m²である。市域の約半分が山地で占められており、その中には金剛生駒紀泉国定公園がある。山地部は、風化の進んだ花崗岩からなり、多くの溪流が分布し、平地部は洪積層及び沖積層からなっている。

河川は、市の中心部を縦走し枚方で淀川に合流する一級河川の天野川や、市の南西部を傍示川（寝屋川水系）が流れている。また、天野川には交野の里山を水源とした、がらと川、申田川、前川、尺治川、妙見川、江尻川などが合流している。



出典：市ホームページ

図 2-1-1 本市の位置図

2. 気象特性

本市の気象は、表 2-1-1 及び図 2-1-2 に示すように平均気温が 15.9～16.9℃と温暖で、年間降水量は約 1,600mm 前後と少ない。

表 2-1-1 気温及び降水量の推移

年次	気 温(°C)			降水量(mm)	
	平均	最高	最低	総量	日最大
平成24年	15.9	37.1	-4.6	1,672.5	125.0
平成25年	16.3	38.1	-2.8	1,743.5	172.0
平成26年	15.9	38.0	-2.7	1,337.5	141.5
平成27年	16.4	37.8	-2.0	1,683.5	163.5
平成28年	16.9	37.7	-4.3	1,529.0	92.5
1月	5.5	16.6	-4.3	73.5	51.5
2月	6.4	21.8	-2.1	80.0	35.0
3月	9.9	22.8	-1.5	81.0	35.5
4月	15.8	28.8	2.9	145.5	66.5
5月	20.7	31.3	9.8	123.0	34.5
6月	23.0	33.6	11.6	306.0	76.5
7月	27.6	36.9	21.3	103.0	30.5
8月	28.8	37.7	18.7	160.5	92.5
9月	25.0	34.9	17.6	222.0	61.5
10月	19.5	31.9	7.1	64.5	27.0
11月	12.2	21.9	4.0	80.0	33.0
12月	8.1	19.3	-1.2	90.0	32.0

資料: 気象庁(枚方観測所)

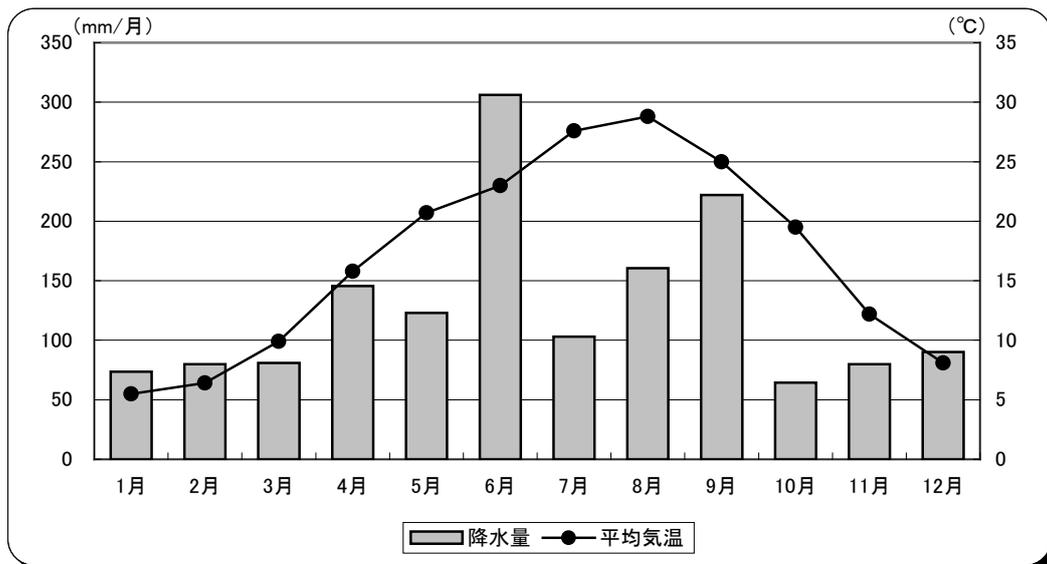


図 2-1-2 平成 28 年の気温と降水量

第2節 社会環境特性

1. 人口

本市の人口は、表 2-2-1 及び図 2-2-1 に示すように平成 21 年度以降は減少傾向で推移しているものの、世帯数は増加傾向で推移している。

また、図 2-2-2 に示す年齢 3 区分別人口比率の推移をみると、少子高齢化が進行しており、老年人口（65 歳以上）比率が年々増加し、平成 27 年時点で 26.3%となっている。

表 2-2-1 人口及び世帯数の推移

項目\年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
人口(人)	78,991	79,216	78,954	78,860	78,539	78,051	78,114	77,928	77,943	77,913
世帯数(世帯)	29,963	30,527	30,704	30,995	31,188	30,935	31,235	31,396	31,698	32,022
1世帯当たり人口(人/世帯)	2.64	2.59	2.57	2.54	2.52	2.52	2.50	2.48	2.46	2.43

注)住民基本台帳による人口(日本人及び外国人住民)の合計(各年度末現在)

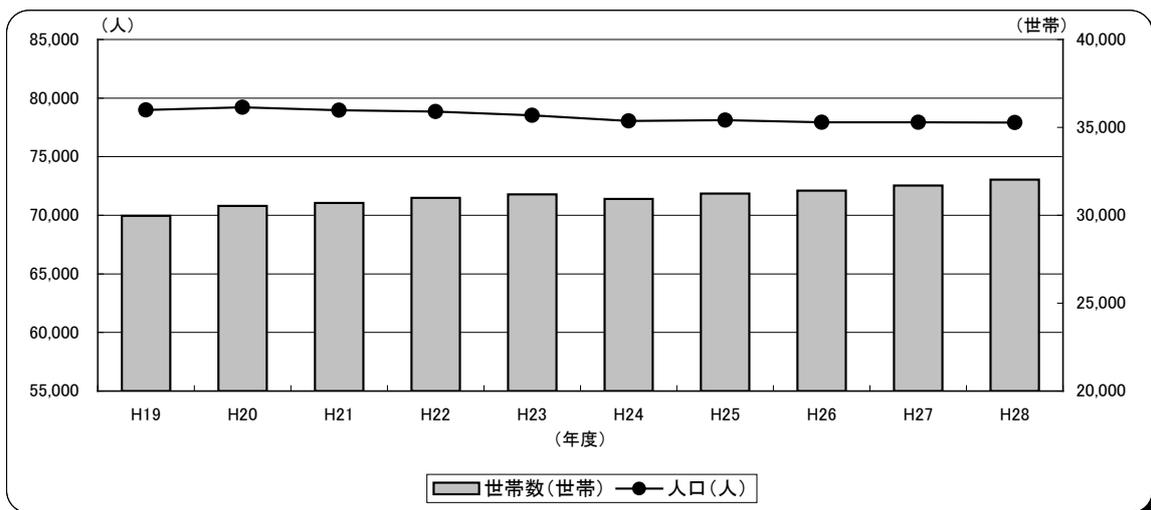
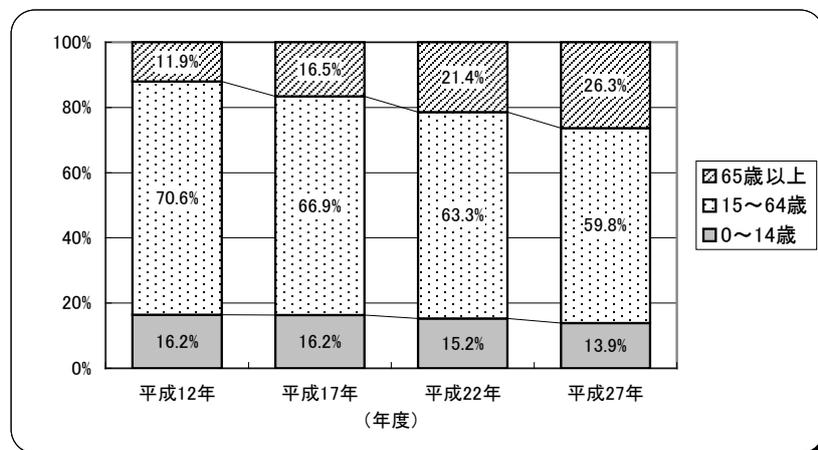


図 2-2-1 人口及び世帯数の推移



資料:国勢調査(各年10月1日現在 年齢不詳を除く)

図 2-2-2 年齢 3 区分別人口比率の推移

2. 産業の動向

本市の事業所数は、表 2-2-2 及び図 2-2-3 に示すように平成 26 年時点で 2,115 事業所あり、そのうち卸売業・小売業が最も多く、次いで医療・福祉、建設業、宿泊業・飲食サービス業が多くなっている。従業者数でも、卸売業・小売業が最も多く、次いで医療・福祉、製造業が多くなっている。

表 2-2-2 事業所数及び従業者数（産業大分類別事業所）

産業分類	事業所数(事業所)		従業者数(人)	
	平成21年	平成26年	平成21年	平成26年
総数	2,115	2,115	20,940	19,428
農林漁業	3	3	14	20
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	218	212	1,358	1,081
製造業	196	189	3,644	3,192
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3	40	47
情報通信業	20	14	58	20
運輸業・郵便業	35	40	1,013	766
卸売業・小売業	488	461	4,089	3,821
金融業・保険業	26	25	311	252
不動産業・物品賃貸業	153	136	448	405
学術研究・専門・技術サービス業	86	97	362	361
宿泊業・飲食サービス業	207	209	1,513	1,371
生活関連サービス業・娯楽業	204	190	1,199	983
教育・学習支援業	156	152	2,556	1,689
医療・福祉	180	244	2,939	3,700
複合サービス事業	11	11	114	236
サービス業(他に分類されないもの)	123	120	734	680
公務(他に分類されるものを除く)	8	9	548	804

資料：経済センサス基礎調査（調査日：各年7月1日）

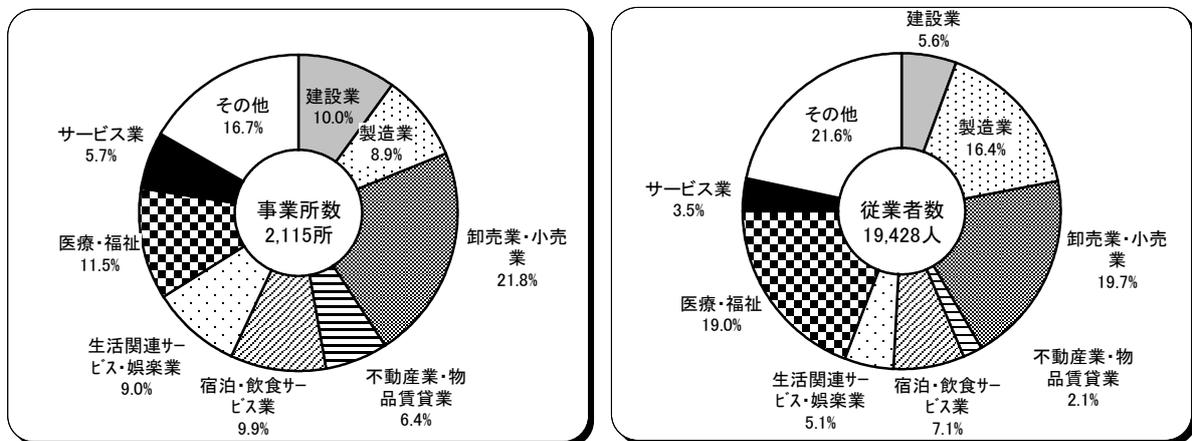


図 2-2-3 産業大分類別事業所数及び従業者数の構成比（平成 26 年）

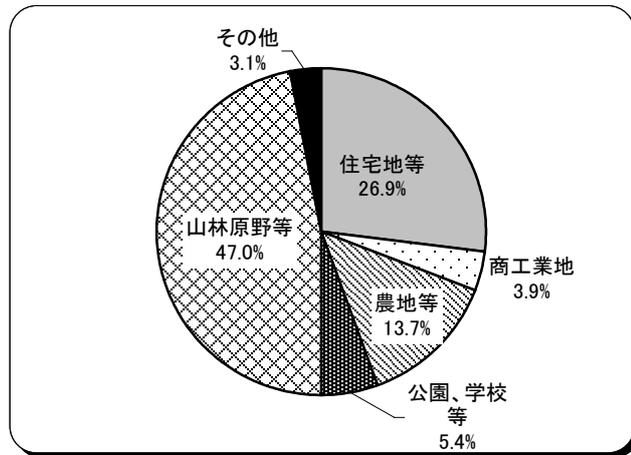
3. 土地利用状況

本市の土地利用は、表 2-2-3 に示すように山林原野等が市域の約半分を占めており、平地部では半分以上が市街地化（住宅地等、商工業地）されている。

また、本市は表 2-2-4 に示すように市全域(2,555ha)が都市計画区域に定められており、市街化区域が 920ha、市街化調整区域は 1,635ha である。用途地域が定められているのは 930.8ha で、その内訳は住居系が 834.2ha (89.6%)、商業系が 15.7ha (1.7%)、工業系が 80.9ha (8.7%) となっている。

表 2-2-3 土地利用状況（平成 22 年度）

土地利用	面積 (ha)	構成比
住宅地等	686.2	26.9%
商工業地	98.0	3.9%
農地等	350.6	13.7%
公園、学校等	138.1	5.4%
山林原野等	1,198.3	47.0%
その他	78.9	3.1%
合計	2,550.1	100.0%



注) 住宅地等：一般市街地、集落地、官公署
 商工業地：商業業務地、工場地
 農地等：田、畑、休耕地
 公園、学校等：普通緑地
 山林原野等：山林、原野、牧野、低湿地、荒無地
 その他：水面、公共施設、道路、鉄軌道敷、その他空地

資料：土地現況調査（平成22年度）

表 2-2-4 都市計画区域、市街化区域、用途地域等の決定状況

区 分	面積 (ha)	構成比
都市計画区域	2,555	100.0%
市街化区域	920	36.0%
市街化調整区域	1,635	64.0%
用途地域	930.8	100.0%
第一種低層住居専用地域	155.5	16.6%
第一種中高層住居専用地域	488.0	52.4%
第二種中高層住居専用地域	89.9	9.7%
第一種住居地域	91.0	9.8%
第二種住居地域	9.8	1.1%
近隣商業地域	15.7	1.7%
準工業地域	37.0	4.0%
工業地域	43.9	4.7%

注) 平成27年3月末現在

資料：平成28年度 大阪府統計年鑑（大阪府）

4. 総合計画等

(1) 総合計画

第四次交野市総合計画基本構想（平成 22 年）では、“かたの”の基本的なものさしとなる基本理念や暮らしの夢を定めており、その概要は以下のとおりである。

■第四次交野市総合計画基本構想の概要

- ◇ 目標年次：平成 34 年度
- ◇ 基本理念：あじわい・なりわい・にぎわい “みんな活” でわいわいと
“かたのサイズ” なまち暮らし
- ◇ 暮らしの夢：
 - 1) 心も体もいきいきと、思いやり、心（情）の通う暮らし
 - 2) 福祉が充実し、「お互い様」と助け合える人の「わ(和・輪)」に支えられた暮らし
 - 3) 子どもや若者が、それぞれの個性を育み、のびのびと遊び、学ぶ暮らし
 - 4) 多様な人とふれあい、文化と人権意識を育む明るく楽しい暮らし
 - 5) 地域の歴史や自然と親しみ、もてなしの心をもった暮らし
 - 6) 身近な緑を愛し、守り、育て、自然との共生を楽しむ暮らし
 - 7) 農地・食文化を大切にした地産地消の暮らし
 - 8) 第二京阪道路をいかした、にぎわいのある暮らし
 - 9) 地球環境に思いをはせ、我がまちは我が手で守る暮らし
 - 10) まちが働く舞台となり、みんながつながる元気な暮らし
 - 11) つながりを大切に、まちの職員がほどよく支える暮らし

(2) 環境基本計画

交野市環境基本計画（平成 24 年 3 月）では、目指すべき将来像（ビジョン）を実現するための具体的プロジェクトを定めており、その概要は以下のとおりである。

■交野市環境基本計画の概要

- ◇ 目標年次：平成 33 年度
- ◇ 総合ビジョン：市民一人ひとりが輝く「みんなのかたの」は美しく・やさしく・たのしい環境のまち
- ◇ 具体的プロジェクト：
 - 1) 自然環境分野：人々が憩う豊かな自然がある
 - 2) エコ生活分野：魅力のある交野エコ良人の活躍するまち
 - 3) エネルギー分野：自然の恵みを取りいれ、かしこくエネルギーを使うまち
 - 4) まちづくり分野：住み続けたい環境へ・やさしいまち交野

第3節 水利用、水質保全の状況

1. 水利用状況

本市の水道水源は、表 2-3-1 に示すように約 7 割が自己水で、残りの 3 割は大阪広域水道企業団の企業団水を取り入れている。自己水は、市内各所に設けた 16 本の井戸から地下水をくみ上げ、星の里浄水場で浄水処理したもので、大阪府広域水道企業団水（以下、「企業団水」という。）は、淀川の水を大阪広域水道企業団が村野浄水場で浄化処理したものである。

表 2-3-1 年間取水量及び需要用途別年間給水量の推移

単位：千 m^3

年次	年間取水量		需要用途別年間給水量(有収水量)					
	地下水 (井戸)	府営水 (企業団水)		生活用	業務営業	工業用	その他	
H23	8,181	4,524	3,657	8,027	7,056	625	230	116
H24	8,082	5,244	2,838	7,920	6,964	615	227	114
H25	7,885	5,508	2,377	7,652	7,651			1
H26	7,701	5,410	2,291	7,497	6,766	302	190	239
H27	7,744	5,486	2,258	7,455	6,006	558	189	702

資料：平成23～27年度 大阪府の水道の現況(大阪府)

2. 水質保全の状況

市内主要河川の平成 27 年度水質調査結果を表 2-3-2 に、BODの経年変化を図 2-3-1 に示す。

天野川は、奈良県下より下流において生活環境項目では環境基準B類型に属しており、3 地点 (No. 1～3) のBODとSSはいずれも環境基準値 (BOD : 3mg/l、SS : 25mg/l) を下回っているが、大腸菌群数はいずれも環境基準 (5000MPN/100ml) を超えている。

BODの経年変化では、ほぼ横ばい状態で推移しているが、平成 26, 27 年度では僅かに高くなっている。

他の河川では、星田中川、江尻川、野々田川・北代水路及びびがらと川でBODが環境基準値を超えており、SSはいずれの河川も環境基準値を下回っているが、大腸菌群数はいずれの河川も環境基準値を超えている。

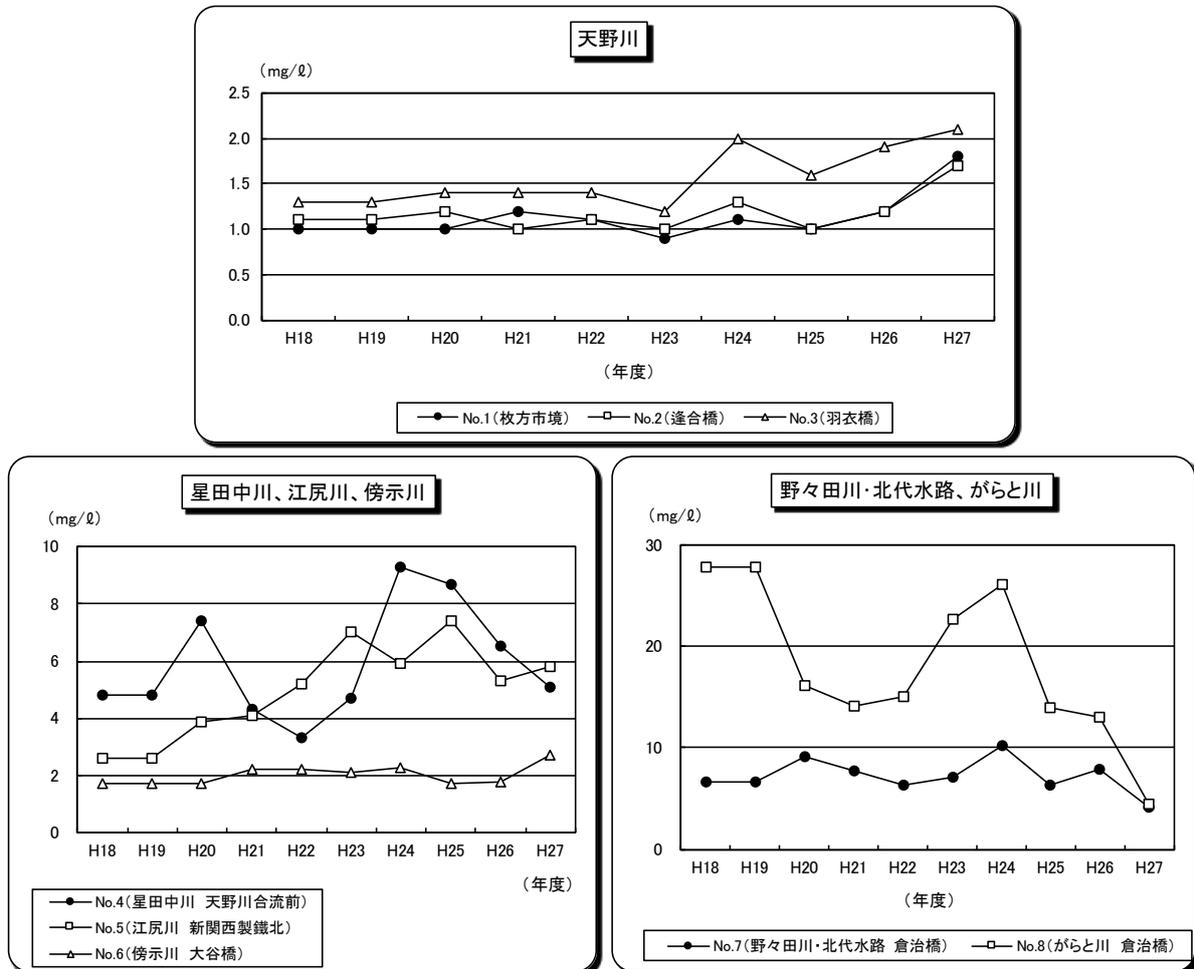
BODの経年変化では、星田中川、野々田川・北代水路及びびがらと川が近年減少傾向で推移しており、江尻川及び傍示川はほぼ横ばい状態で推移している。

表 2-3-2 河川の水質調査結果（平成 27 年度）

地点番号	河川名(地点名)	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)
No.1	天野川(枚方市境)	1.8	3.8	2	13,000	1.4	0.085
No.2	天野川(逢合橋)	1.7	3.7	2	8,700	1.5	0.12
No.3	天野川(羽衣橋)	2.1	4.5	4	20,000	1.5	0.10
No.4	星田中川(天野川合流前)	5.1	8.4	5	87,000	3.8	0.87
No.5	江尻川(新関西製鐵北)	5.8	7.1	9	51,000	2.2	0.25
No.6	傍示川(大谷橋)	2.7	4.2	6	30,000	2.5	0.20
No.7	野々田川・北代水路(倉治橋)	4.2	8.3	10	79,000	3.2	0.46
No.8	がらと川(倉治橋)	4.5	6.8	3	76,000	3.6	0.67

注)平成27年度平均値

資料:交野の環境 平成28年版 交野市



資料:交野の環境 平成28年版 交野市

図 2-3-1 河川のBOD（平均値）経年変化